

92名の皆様、卒業まことにおめでとうございます。

本日は南丹市 佐々木市長様、学友会 玉田会長様 はじめ多くのご来賓の方々のご列席のもと、京都医療科学大学卒業式・学位記授与式をとりおこなえますことは、本学にとりましても私にとりましても大きな喜びであります。この卒業式にご出席くださいましたご家族、関係者の方々にも心よりお慶び申し上げます。

今日は寒いですが、明日・明後日から暖かい、さわやかな春の季節となるようです。卒業生の皆様も、今日はさわやかな春のような気持ちのことでしょう。ただ、皆さんがこの良き日を迎えることができましたのは、皆さん自身の毎日の努力はもちろんですが、今日まで深い愛情を注いで、励ましてくださったご両親、ご家族、その他多くの人々の支援があったからこそです。保護者の方々には、本学の教育に対してご理解とご協力をいただきましたことに、この場を借りて深く御礼申し上げます。

さらに入学以来、卒業生を今日までご指導くださいました教職員全員に、学長として深甚なる感謝の意を表したいと思えます。

卒業生の皆様はこれから全国各地の病院であるいは企業で、診療放射線技師として働くことになります。

ただ診療放射線技師の資格を持ったとはいえ、まだ生まれたばかりの、ひとり歩きできない赤ちゃんなのです。現場ではまだ何もできません。親のお陰で赤ちゃんから何年もかけて成長するように、これからは現場の先輩に教えてもらいながら、一人前の放射線技師に成長してゆきます。

これからも生涯、本学の建学の精神

「品性を陶冶し、有為の技術者を養成することを以て目的とす」を心に留めておいてください。放射線医療の技術とともに品性、人間性を磨いてください。仕事をしていると、どのような仕事であれ、その人の人間性が現れてきます。

「一流の人間性があるからこそ、初めて一流の仕事が出来るのです。」

大学生活を振り返ると、楽しいことも苦しいこともあったことでしょう。私にとっても皆様と一緒に食べた美味しいバーベキュー、あるいはスポーツ大会、学園祭など楽しい思い出が一杯です。しか

し、時には試験で実力が発揮できなかった時も、勉強が分からず苦  
労した時も、あるいは友人関係で悩んだ時もあったはずです。それ  
らの苦労、悩みを乗り越えてこの日を迎えることができました。

放射線の医学利用、放射線診断、放射線治療は急速に進歩してい  
ます。大学では放射線の基礎から最先端の放射線技術まで学びまし  
た。しかし、現在の最先端の技術も、数年後には新しい技術に置き  
換わります。卒業生の皆様はこれから 50 年近く診療放射線技師とし  
て仕事することになりますが、今から 50 年前の 1968 年、昭和 43  
年。ご両親が生まれたころでしょうか、私はすでに大学生でしたが、  
カラーテレビが普及し始めたばかりで、パソコンもインターネット  
もありませんし、携帯電話、スマートフォンもありませんでした。  
もちろん CT 装置も MRI 装置もフラットパネルディテクター (FPD)  
まだ開発されていません。

しかし、この 50 年の間に科学は急速に進歩し、コンピュータ、  
FPD, CT, MRI が病気の診断、治療に欠かせなくなりました。また人  
工知能 AI も医療の分野に導入されようとしています。皆様は新しい  
技術を積極的に取り入れ、それをマスターし使いこなさなければな  
りません。これから難しい技術、困難な局面にいくつも出会います。  
それらを解決し乗り越えてゆかねばなりません。

ただ、人生はなかなか思うようにならないものです。予定通り、  
計画通りには進みません。人生は挫折するものです。

「その場、その場でベストを尽くす」

しかありません。家族、友人、先輩、教師などに助けをもらい、  
励ましてもらいながら、努力しベストを尽くせば、必ず道は開けて  
きます。本学では難しい問題を解決する心構え、分からないことを  
理解する努力などを学んだことでしょう。人は難しいことに挑戦し  
て、成長することが出来るのです。

社会人となつてからの恩返しは、両親、家族だけではありません。  
社会への恩返し、社会貢献しなければなりません。7 年前の 3 月 11  
日、東日本大震災、福島原子力発電所事故が起きました。今なお何  
万人という人が故郷（ふるさと）に帰れず、避難生活をしています  
し、国民の放射線への不安はまだ解消されていません。

診療放射線技師は「放射線の基礎からその利用まで、系統だって学ぶ唯一の職種」です。震災直後、多くの診療放射線技師が福島に行き、現地の放射線量の測定などを行いました。本校の教員、職員も交代でボランティアとして福島に行き、お手伝いしました。

診療放射線技師となった皆様が、放射線の健康影響についての正確な情報を、地域の住民、国民に伝えなければなりません。もし万一、原発事故が起きた際には、診療放射線技師が地域のリーダーにならなければなりませんし、皆様の知識が周囲の方々の安全と安心につながります。

「自分のためだけでなく、他の人に役立つのが、最高の幸せです。」

本学は創立 90 周年を迎えました。創立以来 90 年の間に本学を卒業した 4 千人余りの先輩の苦労があったからこそ、今日があるということをお忘れなくください。

「卒業生の皆さんが本学をさらに発展させる」

という強い自覚と責任を持ってください。本学が発展するかどうかは、皆様如何にかかっています。

卒業生の皆様が 4 月からそれぞれの病院で、職場で、診療放射線技師として活躍され、社会に貢献する人材になれることを、心より期待しています。

皆様の輝かしい新しい門出を祝福して、私の饞の言葉といたします。

平成 30 年 3 月 10 日  
学校法人島津学園  
京都医療科学大学  
学長 遠藤 啓吾